

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	いばらきけんりつつちうらだいいちこうとうがっこう				②所在都道府県	茨城県								
26～30	①学校名	茨城県立土浦第一高等学校													
③対象学 科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模									
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 在籍 960 名									
	320人	40人	40人		400人										
⑥研究開 発構想名	生物資源を活かすビジネスを起業する課題研究で育むグローバル人財														
⑦研究開 発の概要	<ul style="list-style-type: none"> 生物資源を活かすビジネスを起業する課題研究を筑波大学や筑波銀行などと連携して進めることで、課題解決のための思考力・判断力・表現力、および人的ネットワーク構築術を身に付ける。 外国人講師による講義など各種プログラムを通し、英語・ICT スキル、幅広い視野、コミュニケーション能力を身に付ける。 														
⑧研究開 発の 内容等	<p>(1) 目的・目標</p> <p>高大産連携を通してグローバル人財を育成する効果的なカリキュラムを提案することが本研究開発の目的である。グローバル人財とは、生物資源に恵まれた地元茨城の良さを伝えることのできる、将来グローバル・リーダーとなる人材であり、人材は財産であるとの意味を込めて「人財」としている。本校は国際都市つくば市に隣接して立地する。その地の利を生かし、以前より筑波大学や各種研究所と交流を進めてきたが、その連携をさらに広げて本研究開発を実施することとした。課題研究や起業教育プログラムを筑波大学・筑波銀行と連携して行うことでグローバル高校生を育てる。その生徒を「国際的に活躍できる人材」育成を理念とする筑波大学に送ることで、筑波大学ではよりハイレベルなグローバル・リーダー育成に取り組める。さらに筑波銀行の地域貢献も図れる。この三者にとって利点のある計画を「土浦・つくば Win-Win プラン」と名づけ、高大産連携のあり方のスタンダードとして提案していく。右に示したグローバル・リーダー像を踏まえ、その育成の教育活動を次の二つに分け、各々目標を設定する。</p>														
	⑧ -1 全 体	<p>【課題研究】</p> <p>[目標1]課題設定、解決の思考力が身に付く。 [目標2]人的ネットワーク構築術が身に付く。 [目標3]英語・ICTなどのスキルが身に付く。 [目標4]幅広い視野が身に付く。</p> <p>【グローバル・リーダー養成】</p> <p>[目標5]コミュニケーション能力が身に付く。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校は116年の歴史のある学校である。「百年を超える歴史と伝統」に培われた「自主・独立の気風」が醸成されており、学ぶ生徒たちの「高い理想と自己実現」の場となっている。その教育の一環として高大連携を進め、早期にグローバル・リーダーとしての自覚を促す取組を推進してきた。その取組を一層発展させるため、世界各国で重要な生物資源に注目し、それを活かすビジネスを起業する課題研究に取り組む本研究開発を実施する。高大産が連携し、海外をも股にかけた課題研究に取り組むことにより、生徒はグローバル・リー</p>					<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">本校の描くグローバル・リーダー像</td> </tr> <tr> <td>世界の仕組みを理解し、課題を見つけ、他者の立場を尊重し、解決に導く決断ができる人</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">グローバル・リーダーとしての資質</td> </tr> <tr> <td>ア 多様な好奇心で、自ら物事を探り究める力</td> </tr> <tr> <td>イ 明確な信念に基づく決断力</td> </tr> <tr> <td>ウ 自らの判断を的確に表現するプレゼン能力</td> </tr> <tr> <td>エ 世界の諸課題に対する幅広い関心と深い理解力</td> </tr> <tr> <td>オ 日本の「和」の精神を持ちながら、様々な価値観を持つ人と渡り合えるコミュニケーション能力</td> </tr> </table>		本校の描くグローバル・リーダー像	世界の仕組みを理解し、課題を見つけ、他者の立場を尊重し、解決に導く決断ができる人	グローバル・リーダーとしての資質	ア 多様な好奇心で、自ら物事を探り究める力	イ 明確な信念に基づく決断力	ウ 自らの判断を的確に表現するプレゼン能力	エ 世界の諸課題に対する幅広い関心と深い理解力
本校の描くグローバル・リーダー像															
世界の仕組みを理解し、課題を見つけ、他者の立場を尊重し、解決に導く決断ができる人															
グローバル・リーダーとしての資質															
ア 多様な好奇心で、自ら物事を探り究める力															
イ 明確な信念に基づく決断力															
ウ 自らの判断を的確に表現するプレゼン能力															
エ 世界の諸課題に対する幅広い関心と深い理解力															
オ 日本の「和」の精神を持ちながら、様々な価値観を持つ人と渡り合えるコミュニケーション能力															

	<p>ダーに必要な探求心, 人的ネットワーク構築術, 英語・ICT スキル, 幅広い知識, コミュニケーション能力を身に付けることができる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>[研究発表] 筑波大学, 筑波銀行, 学校説明会, 学校文化祭, 同窓会主催卒業生交流会</p> <p>[合同討議] 浦和高校・その他 SGH 指定校, 米軍基地アメリカンスクール高校生</p> <p>[その他] ホームページによる研究成果公表, 育成プログラム普及に関する教員向け研修</p>																														
⑧ -2 課題 研究	<p>(1) 課題研究内容</p> <p>生物資源の利活用や, それに関する諸課題の解決には, 学際的な素養や国際的視野が不可欠である。そこで生物資源を活かすビジネスを起業する課題研究は, グローバル・リーダーの育成に最適なテーマと考える。課題の例としては, 地元の霞ヶ浦に発生するアオコをバイオ燃料として利活用する試みに関する内容, 水資源の枯渇と獲得競争に関する国際的枠組みに関する内容, 農産品の輸出入に付随する仮想水(バーチャル・ウォーター)貿易に関する内容, 地元の農産品を世界に売り出すための数値的分析や数理的戦略に関する内容などを想定する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価(主なもの)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>研究開発単位(テーマ)・内容</th> <th>期待される成果</th> <th>検証評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[K1]課題探求活動</td> <td>課題解決能力の獲得</td> <td>探究心をもって進められたか。</td> </tr> <tr> <td>[K2]筑波大学教員の講義</td> <td>課題研究テーマの明確化</td> <td>テーマを明確化できたか。</td> </tr> <tr> <td>[K3]筑波大学留学生とのブース・ワークショップ</td> <td>課題研究テーマへの幅広い関心と深い理解</td> <td>議論に積極的に参加し, 成果を得られたか。</td> </tr> <tr> <td>[K4]海外大学との連携</td> <td>課題研究テーマの深化</td> <td>テーマを深化発展できたか。</td> </tr> <tr> <td>[K5]筑波大学・筑波銀行との連携による起業プログラム</td> <td>人的ネットワーク構築術の獲得</td> <td>有効なネットワークを構築できたか。</td> </tr> <tr> <td>[K6]海外高校との連携</td> <td>意見交換・研究発表</td> <td>電子メールで情報交換できたか</td> </tr> <tr> <td>[K7]海外でのフィールドワーク</td> <td>野外調査の実施</td> <td>課題研究を実証できたか</td> </tr> <tr> <td>[K8]外国人講師の経営学講義</td> <td>起業に関する基礎的事項</td> <td>起業に関し課題を発見できたか</td> </tr> <tr> <td>[K9]グローバル人材育成</td> <td>幅広い素養と専門的スキル</td> <td>リーダーの自覚を持てたか</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <p>上記の取り組みを学校設定教科「国際」の2単位科目「グローバルキャリアデザイン」および1単位科目「グローバルキャリアアドバンス」で実施。</p>	研究開発単位(テーマ)・内容	期待される成果	検証評価方法	[K1]課題探求活動	課題解決能力の獲得	探究心をもって進められたか。	[K2]筑波大学教員の講義	課題研究テーマの明確化	テーマを明確化できたか。	[K3]筑波大学留学生とのブース・ワークショップ	課題研究テーマへの幅広い関心と深い理解	議論に積極的に参加し, 成果を得られたか。	[K4]海外大学との連携	課題研究テーマの深化	テーマを深化発展できたか。	[K5]筑波大学・筑波銀行との連携による起業プログラム	人的ネットワーク構築術の獲得	有効なネットワークを構築できたか。	[K6]海外高校との連携	意見交換・研究発表	電子メールで情報交換できたか	[K7]海外でのフィールドワーク	野外調査の実施	課題研究を実証できたか	[K8]外国人講師の経営学講義	起業に関する基礎的事項	起業に関し課題を発見できたか	[K9]グローバル人材育成	幅広い素養と専門的スキル	リーダーの自覚を持てたか
研究開発単位(テーマ)・内容	期待される成果	検証評価方法																													
[K1]課題探求活動	課題解決能力の獲得	探究心をもって進められたか。																													
[K2]筑波大学教員の講義	課題研究テーマの明確化	テーマを明確化できたか。																													
[K3]筑波大学留学生とのブース・ワークショップ	課題研究テーマへの幅広い関心と深い理解	議論に積極的に参加し, 成果を得られたか。																													
[K4]海外大学との連携	課題研究テーマの深化	テーマを深化発展できたか。																													
[K5]筑波大学・筑波銀行との連携による起業プログラム	人的ネットワーク構築術の獲得	有効なネットワークを構築できたか。																													
[K6]海外高校との連携	意見交換・研究発表	電子メールで情報交換できたか																													
[K7]海外でのフィールドワーク	野外調査の実施	課題研究を実証できたか																													
[K8]外国人講師の経営学講義	起業に関する基礎的事項	起業に関し課題を発見できたか																													
[K9]グローバル人材育成	幅広い素養と専門的スキル	リーダーの自覚を持てたか																													
⑧ -3 上 記 以 外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取組・内容</th> <th>期待される成果</th> <th>検証評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グローバル・リーダー養成キャンプ</td> <td rowspan="2">協調精神および多様な価値観を有する他者とのコミュニケーション能力</td> <td>リーダーの資質を身に付けたか</td> </tr> <tr> <td>リーダー研修会</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>[G1][G2]は夏季休業等の休業日に実施するため, 教育課程の特例は必要としない。</p>	取組・内容	期待される成果	検証評価方法	グローバル・リーダー養成キャンプ	協調精神および多様な価値観を有する他者とのコミュニケーション能力	リーダーの資質を身に付けたか	リーダー研修会																							
取組・内容	期待される成果	検証評価方法																													
グローバル・リーダー養成キャンプ	協調精神および多様な価値観を有する他者とのコミュニケーション能力	リーダーの資質を身に付けたか																													
リーダー研修会																															
⑨ その他 特記事項	<p>グローバル・リーダー養成の一環として, 模擬国連会議や G20ユースサミットなどに参加し, 発表を目指す。</p>																														

ふりがな	いばらきけんりつちゅうだいいちこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	茨城県立土浦第一高等学校		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	人	40人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 40人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、対象生徒は40人(全員)、対象生徒以外は100人とする。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:	1人	2人	人	人	人	人	人	8人
目標設定の考え方: 2人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、対象生徒は40人(全員)、対象生徒以外は8人とする。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	%	56%	%	%	%	%	%	66%
目標設定の考え方: 56%(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、対象生徒は80%、対象生徒以外は66%とする。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	人	0人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 0人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、対象生徒は10人、対象生徒以外は5人とする。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	10%	12%	%	%	%	%	%	80%
目標設定の考え方: 0%(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、対象生徒は100%、対象生徒以外は80%とする。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(33年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		100%	100%	%	%	%	100%
目標設定の考え方:すでに100%であるが、年次的に継続させ、終了年次にも100%とする。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	6人
	SGH対象生徒以外:		1人	0人	人	人	人	3人
目標設定の考え方:0人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、対象生徒は5人、対象生徒以外は3人とする。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	50%
目標設定の考え方:年次的に増加させ、終了年次には、対象生徒は80%、対象生徒以外は50%とする。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	100人
目標設定の考え方:年次的に増加させ、終了年次には、対象生徒は40人(全員)、対象生徒以外は100人とする。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	人	0人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方:0人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、30人とする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	人	0人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方:0人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、40人とする。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	校	0校	校	校	校	校	校	5校
目標設定の考え方:0人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、5校とする。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	人	0人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方:0人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、80人とする。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	人	0人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方:0人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、80人とする。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	2人	6人	人	人	人	人	人	40人
目標設定の考え方:6人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、40人とする。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	人	10人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方:10人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、20人とする。								
先進校としての研究発表回数								
h	回	0回	回	回	回	回	回	10回
目標設定の考え方:0人(25年度)から始め、年次的に増加させ、終了年次には、10回とする。								
外国語によるホームページの整備状況								
i	○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							○
目標設定の考え方:25年度は整備されていないため、早急に対応する。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	965	954	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							